

令和7年度 第1回学校運営協議会 議事録

○日時：令和7年6月19日（木）14：00～15：30

○場所：三刀屋高校掛合分校 音楽室

○出席者：学校運営協議会委員 6名（※50音順による 敬称略）

安食 貴司(掛合分校PTA会長)、飯塚 真(掛合分校同窓会長)、石飛 登芳(社会福祉法人
仁寿会サービス管理責任者)、小川 真里(掛合町文化協会事務局)、根本 登三男(雲南市立
掛合中学校長)、松村 知子(掛合子育て支援センター職員)

学校関係 2名

岡 秀樹(三刀屋高等学校長)、小川 剛(三刀屋高等学校掛合分校副校長)

○次第及び協議内容等（概要）

- (1) 委嘱状交付及び役員選出 → 会長：小川委員、副会長：安食委員
- (2) 学校経営方針等について → 校長から説明後承認
- (3) 学校現況報告及び今年度の活動について → 副校長より説明
- (4) 意見聴取

○意見交換等における主な意見等（概要）

- ・ 力を入れている体験学習について、1年次に探究したものが2年次に地域貢献につながり、3年次に創造、自分たちで何かを創り出し発展していくというすばらしい3年間の流れができています。私としてはワクワクする感じがする。
- ・ 県内のほとんどの高校が定員割れの状況にあるが、掛合分校には次のお願いがある。中学校での部活動指導の関わりから、教室には行けないが部活動には参加する者がいることを知っている。現在は授業に出られなくても、高校に行きたい、高校で頑張りたいという希望でサポートを受けている生徒の受け皿になってほしい。中学校時代に学力、出席が満たない生徒もいるだろうが、高校に入ってから育てていただきたい。
- ・ 学校だけでなく社会全体の関わりの中かで、様々な活動をとおして子どもを見つめ育て、教育を支えていき、それを学校は受け入れて教育が進んでいく、という良い時代になってきた。
- ・ (県では来年度入学者選抜から長期欠席者等に配慮した選抜方式を導入することに関して) 中学校にも制度設計についての情報が入っている。昨年度も県教委から話は聞いていた。私学には早くから同様の対応がなされており、たくさんの生徒が高校に入ると変わったと聞く。中学校でもそういう生徒たちの進路を保障したい。良い制度だと思う。
- ・ (お米が足りないとか、台湾から日本へ逆輸入するとかいうニュースも聞くなかで、これまで宇山営農組合とともに米づくりをしている掛合分校の現場も状況が変わるのかという質問に対して) 営農組合と米穀店の戦略は、良い米を欲しい人に売る、というすみ分けを完全にしている。その米は中山間地の良い環境下で管理が徹底されたものであり、現在の米不足は普段使いの低価格帯のものである。その不足分を海外から輸入するとか備蓄米を市場に出すとか、そういった対応である。そのため、掛合分校の取組自体には大きな影響はないはずだ。
- ・ 米づくりの体験だけでなく、米販売の戦略もパッケージのデザインやのぼり旗の考案など、いろいろな方面から得られる学びもある、ということを知ることができた。これも探究学習の一つだと確認できた。